



2008年4月30日

各 位

所在地 東京都港区六本木六丁目8番10号  
会社名 オリコン株式会社  
代表者名 代表取締役社長 小池 恒  
(コード番号 4800 大証ヘラクレス市場)  
問い合わせ先 執行役員企業広報部長 日高輝明  
TEL 03-3405-5252 (代表)

## 韓国子会社の異動(譲渡)、並びにそれに伴う特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2008年4月30日開催の取締役会において、当社の韓国の連結子会社 ORICON CNS INC. (以下、オリコンCNS)の株式を譲渡することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、今回の株式譲渡に伴い、2008年3月期に特別損失を計上することとなり、これによって2008年3月期の業績予想を下記のとおり修正いたしますので、併せてお知らせいたします。

### 記

#### I. 子会社の異動(譲渡)

##### 1. 株式の譲渡の理由

オリコンCNSは、2004年12月に当社のグループ企業となり、韓国におけるインターネット向け映像配信(VOD: video on demand)サービスの最大手企業として、映画等のVODサービスをBtoCで展開する他、版權販売や映像配信代行サービス(「NEFF-PRO」)等のBtoB事業を展開しています。さらに2006年より、VODサービスで培ったノウハウを活かし、映画等の映像配信支援・管理システム(「NEPI」)の開発を開始しました。2007年4月にシステム構築を完了した後、6月にワーナーブラザーズグループの韓国法人 Warner Home Video (Korea) Inc. と「NEPI」を使用したコンテンツ配給について契約締結を行い、他の配給会社、並びに映像配信サービス事業者との契約締結交渉も推進いたしました。しかしながら、契約件数が計画を下回って推移し、「NEPI」の開発費用の他、過去に購入した版權の償却負担も加わり、営業費用が高んだため営業赤字幅が拡大しました。

当社としては、新たに本社より新社長を派遣し、コスト管理を徹底して行う等、管理を強化して参りましたが、上期の営業損失が67百万円だったところ、下期においては154百万円の営業損失(第4四半期で計上した売上債権に対する貸倒引当金97百万円を含む)を計上する結果となり、赤字幅が拡大しました。コスト削減を継続的に断行し、かつ2008年3月期において版權等の減損を進めたことで、2009年3月期においては黒字化の目処がたったものの、収益力を十分に回復するには相応の時間を要すると判断されるため、オリコンCNSの株式の約80%を韓国の有力企業に譲渡することといたしました。譲渡先としては、韓国慶尚南道昌原市を中心に事業展開している Dongbang グループの関連会社で情報通信事業を行っている Dongbang Environment Technology Co., Ltd といたしました。

今回の株式譲渡により、オリコンCNSは連結除外となり、当社グループは、インターネットメディア等のメディア事業に経営資源を集中させるなど、国内事業への選択と集中を図って参ります。

##### 2. 異動する子会社の概要(2008年4月15日現在)

- (1) 商号 : ORICON CNS INC. (旧商号: CINE WELCOME CO., LTD.)
- (2) 代表者 : キム・ユンス
- (3) 所在地 : 大韓民国ソウル特別市江南区
- (4) 設立年月日 : 2000年6月9日
- (5) 主な事業内容 : インターネット向け映像配信サービス
- (6) 従業員数 : 17人
- (7) 発行済み株式数 : 1,187,075株

(8) 株主構成 : オリコン株式会社 97.15%、ホン・ボンチョル 2.85%

(9) 最近事業年度における業績の動向

	FY2006	FY2007 (見込み)
売上高	866 百万円	1,042 百万円
営業利益	18 百万円	△222 百万円
経常利益	8 百万円	△259 百万円
当期純利益	2 百万円	△830 百万円
総資産	1,004 百万円	200 百万円
純資産	464 百万円	△354 百万円

### 3. 株式の譲渡先

- (1) 商号 : Dongbang Environment Technology Co., Ltd
- (2) 代表者 : イ・チョル
- (3) 所在地 : 大韓民国慶尚南道昌原市
- (4) 設立年月日 : 2006年3月23日
- (5) 主な事業内容 : 環境関連資材生産および販売事業、電子情報通信事業
- (6) 当社との関係 : 資本関係 なし、人的関係 なし、取引関係 なし

### 4. 譲渡株式数、譲渡金額および譲渡前後の所有株式の状況

- (1) 異動前の所有株式数 1,153,222 株 (所有割合 97.15%)
- (2) 譲渡株式数 964,499 株 (譲渡金額 130 百万円)
- (3) 異動後の所有株式数 188,723 株 (所有割合 15.90%)
- (4) 異動後の株主構成  
Dongbang Environment Technology Co., Ltd 81.25%  
オリコン株式会社 15.90%  
ホン・ボンチョル 2.85%

### 5. 日程

- 2008年4月30日 取締役会決議、株式譲渡契約書締結  
2008年5月8日 株式譲渡期日

### 6. 今後の見通し

- (1) 2008年3月期の業績に及ぼす影響

今回の株式譲渡に伴い、2008年3月期において連結で450百万円、個別で562百万円をそれぞれ特別損失として計上する予定です。従いまして、平成19年11月14日に公表した平成20年3月期の連結業績予想を、次頁「Ⅱ」のとおり修正いたします。

- (2) 2009年3月期以降の業績に及ぼす影響

2009年3月期において、オリコンCNSが当社の連結子会社から除外されることから、連結売上高に対しては減収要因となる見込みです。一方、2008年3月期においてオリコンCNSが営業損失222百万円、経常損失259百万円を計上し、さらに当社がオリコンCNSに関わる費用として、株式譲渡に関わるM&Aアドバイザリー費用や様々な管理系費用を負担していたこと等を考慮すると、2009年3月期の連結の営業利益および経常利益に対しては増益要因となる見込みです。

なお、2009年3月期の連結業績予想については、2008年5月15日に発表予定の2008年3月期の決算短信において開示いたします。

また、2008年3月期の第4四半期においてオリコンCNSの株式譲渡に伴って特別損失を計上したことにより、当期純損失が増加し、2008年3月期の中間期末9.8%、第3四半期末20.2%だった自己資本比率が、第4四半期末に約12%になる見込みです。しかしながら、当社が2008

年4月22日に当社の子会社である株式会社 oricon ME の株式の一部をデジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社に譲渡したことにより、2009年3月期の第1四半期に株式譲渡益140百万円を特別利益として計上するため、このことが、自己資本、並びに自己資本比率を改善させる要因となる見込みです。

## II. 連結業績予想の修正

### 1. 2008年3月期連結業績予想数値の修正（2007年4月1日～2008年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2007年11月14日発表)	5,800	295	200	△90	△575円68銭
今回修正予想 (B)	5,826	190	53	△615	△3,933円83銭
増減額 (B-A)	26	△105	△147	△525	△3,358円15銭
増減率 (%)	0.4%	△35.6%	△73.5%	—	—
前期実績 (2007年3月期通期)	6,131	14	△79	△676	△4,330円91銭

※当社は個別の業績予想を開示しておりません。

### 2. 連結業績予想数値の修正の理由

#### (1) 売上高

各事業が概ね計画通りに推移し、ほぼ予想数値通りとなる見込みです。

#### (2) 営業利益

14百万円と見込んでいたオリコンCNSの第4四半期の営業損失が、149百万円に増加する見込みです。これには、決算の過程において売上債権の評価を行い、営業費用に計上することになった貸倒引当金97百万円が含まれています。このことを主な要因として、当連結会計期間における営業利益が予想数値比105百万円減の190百万円となる見込みです。

オリコンCNSを除く当社グループの各事業については、概ね計画通りに推移し、ほぼ予想数値通りの利益を計上する見込みです。

#### (3) 経常利益

上述の営業利益の修正理由に加え、以下の主な要因で予想数値比147百万円減の53百万円となる見込みです。

- ・オリコンCNS株式の譲渡に関わるM&Aアドバイザー費用17百万円を、特別損失での計上ではなく、営業外費用として計上することになったこと。
- ・ウォン安によって為替差損13百万円を計上することになったこと。

#### (4) 当期純利益

上述(2)(3)の理由の他、「I」で記載した今回のオリコンCNSの株式譲渡に伴って450百万円の特別損失を計上することになり、これらを主な要因として、当期純損失が予想数値比525百万円増加し615百万円となる見込みです。

### Ⅲ. 個別業績見込み数値について

当社は個別の業績予想数値を開示しておりませんが、平成19年3月期の実績値と平成20年3月期の見込み数値との間に差異が生じる見通しですので、以下のとおりお知らせいたします。

#### 1. 個別業績見込み数値と実績値との差異（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成19年3月期実績(A)	596	116	61	△1,407	△9,008円56銭
平成20年3月期見込み(B)	697	158	89	△417	△2,667円33銭
増減額(B-A)	101	42	27	990	6,341円23銭
増減率(%)	16.9%	36.2%	45.9%	—	—

#### 2. 個別業績見込み数値に差異が生じた理由

##### (1) 売上高・営業利益・経常利益

子会社からの経営指導料およびブランド使用料の徴収額、並びに配当が増加したことを主な要因として、差異が生じる見通しです。

##### (2) 当期純利益

平成19年3月期においては1,551百万円の特別損失を計上していましたが、平成20年3月期の特別損失の額は990百万円となる見込みであることから、前期比561百万円減少し、また株式会社 oricon ME の株式譲渡益438百万円をはじめ、特別利益を500百万円計上する見込みであることから、平成20年3月期の見込み数値と平成19年3月期の実績値とに差異が生じる見通しです。

平成20年3月期において計上した特別損失の主なものは以下の通りです。

- ・貸倒引当金繰入（オリコンCNS） 343百万円
- ・関係会社株式評価損（オリコンCNS） 331百万円
- ・事業撤退損失（フランクリン・ミント株式会社） 267百万円

以上

（注）上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき算出しており、実際の業績は今後の様々な要因により異なる場合があります。